

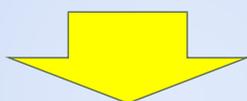
令和5年度小学校教科担任制推進事業

取り組んだ成果と課題

三原市立中之町小学校

【主な取組】

- 1 時間割の工夫
- 2 空き時間の活用⇒お互いに授業参観
- 3 チーム高学年会議の定例化



【以下の視点での成果と課題】

- ①授業の質の向上（授業改善）
- ②多面的な児童理解（児童理解）
- ③小・中学校の円滑な接続
- ④教師の負担軽減（業務改善）
- ⑤その他

2.空き時間の活用⇒お互いに授業参観

【持ち時数の軽減】⇒空き時間ができる！！

	指導する教科	週当たり 空きコマ数
5年1組担任・研究主任	5・6年書写、5年社会	9
5年2組担任	5・6年図画工作、5年体育	7
6年1組担任・生徒指導担当	5・6年外国語、6年社会	6
6年2組担任	5・6年家庭科、6年体育・音楽	4
理科専科・探究型授業推進	3～6年理科	7
教科担任制推進・教務主任	5・6年国語、4年図画工作	9

◎空き時間を活用し、お互いの授業を参観。（週1回以上）
→チーム高学年会議の中で、気づきを交流し、
チームで授業改善に努めている。

2.空き時間の活用⇒お互いに授業参観

成果

- ・空き時間に、教材研究をしたり、互いの授業を参観したりすることができた。（①授業改善）
- ・授業を見合うことで、授業づくりにおける有効な手立てを共有するなど、指導方法について学びを深めることができた。（①授業改善）
- ・自クラスで教科担が授業をしている間、自クラスで丸付けなどしながらクラスの様子を観察することで、他教科での自クラスの子供たちの様子を見ることができた。（②児童理解）
- ・担当教科が絞られたことで、授業準備がしやすくなった。成績処理の際に負担が軽減された。（①授業改善、④業務改善）

2.空き時間の活用⇒お互いに授業参観

課題⇒改善(案)

- 若手の先生にとって、授業をしない教科が出てくる。
(①**授業改善**)
⇒意識して、他の先生の授業を参観し、学ぶようにする。
- 自クラスで担任が使える時間が減るので、宿題の答え合わせやテスト返し、授業内容の補足等の時間をどのように確保するか。(④**業務改善**)
⇒高学年会議で授業の進捗状況も確認することで、時間割を調整したり、担任と連携したりするようにする。
- 授業参観を確実に実施していないことがあった。
(①**授業改善**)
⇒週案作成の際に、参観する授業を決め、授業者に伝えておく事で、確実に実施できるようにする。

3.チーム高学年会議の定例化

毎週水曜日16:00～

- 学級の様子、高学年全体の児童の様子の交流
→高学年として取り組んでいくこと等
- 授業の進捗状況の交流
- 授業参観の気付きの交流
- 学習方法の共有
- アンケート結果についての交流
- 次週の計画(週案)
→授業参観も決定

3.チーム高学年会議の定例化

成果

- ・ 予定の見通しを共有することができる。（①**授業改善**）
- ・ 児童の様子（変化）を迅速に把握し、対応することができる。（②**児童理解**）
- ・ クラス、学年の様子から高学年として取り組むことを話し合い、すぐに実行、評価、改善できる。
→PDCAサイクルが上手く回っている。（⑤**その他**）
- ・ 高学年会議で出した内容を暮会等で全体へ周知することで、**学校全体の取組へ広げることができた**。（⑤**その他**）
- ・ 5・6年に関わっている教師全員で子供たちを育てるという意識が生まれた。（②**児童理解**）

アンケートの結果より

①授業の質の向上について（授業改善）

児童アンケート	肯定的評価
③教科担任制で学ぶことで、授業内容がよく分かるようになった。 （授業改善）	92.2%（県87.2%）

教師アンケート	肯定的評価
①教材研究の深化や教材の工夫等による授業改善につながった。 （授業改善）	100%（県93%） 【とてもあてはまる 60%（県51.1%）】
②専門性を生かした学習指導の充実につながっている。 （授業改善）	100%（県89.8%）
③担当する教科に対して系統的な指導ができている。 （授業改善）	100%（県90.9%） 【とてもあてはまる 60%（県42.5%）】
④教科や指導方法など、教職員間の意見交換の機会が増加している。 （授業改善）	100%（県75.3%） 【とてもあてはまる 80%（県24.2%）】

アンケートの結果より

②多面的な児童理解について（児童理解）

児童アンケート	肯定的評価
④色々な先生と話す機会が増えた。（児童理解）	93.3%（県85.9%）
⑤悩みを相談できる先生が増えた。（児童理解）	74.1%（県72.1%）

教師アンケート	肯定的評価
⑤担当する学級の児童について、日常的に高学年の教員と情報共有ができています。（児童理解）	100%（県95.1%） 【とてもあてはまる 60%（県58.9%）】
⑥担当する学級の児童に対して、組織的な生徒指導ができています。（児童理解）	100%（県92.5%） 【とてもあてはまる 60%（県40.9%）】

アンケートの結果より

④教師の負担軽減について（業務改善）

教師アンケート	肯定的評価
⑦指導教科数の減少による教材研究の時間の確保などの業務改善につながっている。（業務改善）	100%（県96.5%） 【とてもあてはまる 40%（県38.2%）】